

鹿児島大学修学支援室 (障害学生支援センター) センターニュース

2022.6 月発行 VOL.7

発行:修学支援室(障害学生支援センター) 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

共通教育棟 1 号館 2F 修学支援室(障害学生支援センター)

TEL&FAX 099-285-3287

E-mail:learning-support@gm.kagoshima-u.ac.jp

URL: <https://www.kagoshima-u.ac.jp/syogaku/>



修学支援室(障害学生支援センター)の歩み

障害学生支援センター長 前田雅人

障害学生支援センターは平成 26 年 4 月に設置された組織であり、当初は保健管理センターのスタッフの皆さんの力を借りて運営し、現在は専任教員の今村先生と事務の堀ノ内さん、永坂さんの 3 名が勤務しています。今年度は開設 9 年目を迎えており、仕事の主な内容として、①来談者への対応、面接、②修学支援(履修内容の確認、配慮申請書の作成、支援機器の提供)、③修学のための場の提供(学習室の設置)、④全学体制としての障害学生支援委員会の運営、⑤教職員のための学生理解と修学支援ガイドブックの作成、⑥大学構内のバリアフリーマップの作成、⑦障害を持つ受験生の入試および入学支援、⑧九州管内の国立大学における障害学生支援組織との連携、などを担っています。さらに昨年度から、⑨遠隔授業に対応できるよう個別の学習ボックスの設置、⑩苦手な授業がある障害学生に対して、学生アルバイトの雇用による修学支援を実施しています。

当センターの上記の活動は次第に認識されてきており、現在の共通教育棟 1 号館において体制が整った平成 27 年度は来談者が 44 人(うち障害者 34 人)、支援申請書は 7 人に対して 20 件作成していたものが、令和 3 年度は来談者 256 人(うち障害者は 124 人)、支援申請書は 44 人に対して 329 件作成となっています。また最近では留学生に対する支援要請も増えてきて、仕事量が激増しており、当センターのスタッフに対してはもちろん、活動を支援いただいている保健管理センター、学生生活課の方々、学生担当の教職員の方々には感謝の言葉が見つからないくらい、ありがたく思っていますし、支援拡充のため、スタッフの増員はできないものかと思案しております。

さて当センターの名称は「障害学生支援センター」に「修学支援室」を加えています。これは障害があると診断された方のみを対象とするわけではなく、修学にちょっとしたつまずきを感じている方に対しても支援するということを表明するために用いています。例えば、新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業等の実施は、学びの多様性を示した半面、教員の指示をよく理解できない学生さんにとっては、人に相談する機会がなく、孤独感や不安感を強めてしまうことがあります。このような「つまずき」を感じた学生さんにはぜひ「修学支援室」に来ていただきたいです。また教職員の皆様には、昨年度配布しましたガイドブック「遠隔授業と修学支援」をご一読いただきたいと思います。

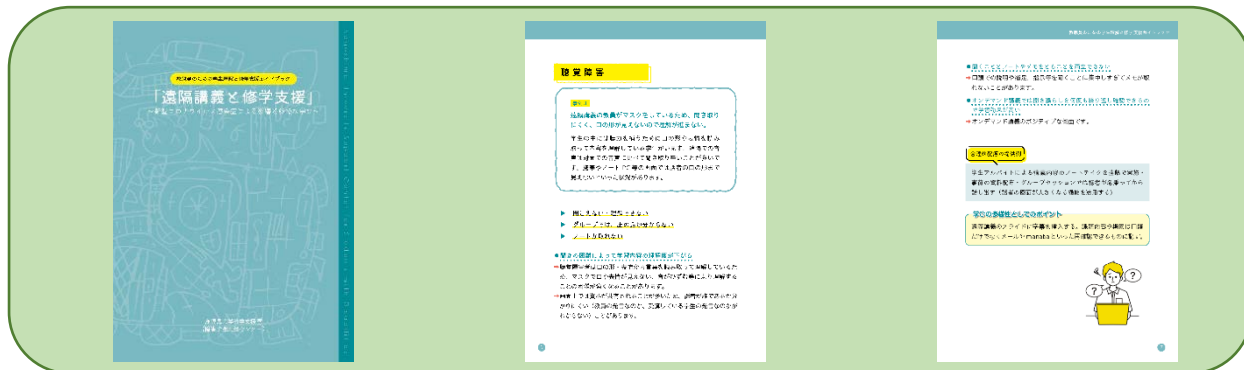
一方、近年の遠隔授業から対面授業への転換によって、かえって人と会うこと、接触することに不安や恐怖を感じる学生さんたちもいるようです。「心」のありようは不思議です。ただ「心」と「体」は相互に影響しあうので、「心」の安定は「体」の安定につながります。よりよい学生支援を実現していくために、皆様の協力が必要です。当センターの活動をご理解いただくとともに、今後ともよろしく願いいたします。

【1】教職員のための学生理解と修学支援ガイドブック発行について

新型コロナウイルス感染症により大学の講義には遠隔講義という新しい教育システムが導入・実践されました。修学支援室では、障害の有無にかかわらず遠隔講義における学生のつまずきに対応したガイドブック『「遠隔講義と修学支援」～新型コロナウイルス感染症による影響と多様な学び～』を発行しました。遠隔講義におけるつまずき等について事例を挙げて解説しております。修学支援室のHPにも掲載しておりますので、ぜひ参考にしてください。

[d54a93c93acf306cfb43de4dc5340d37d949b699.pdf \(kagoshima-u.ac.jp\)](https://www.kagoshima-u.ac.jp/d54a93c93acf306cfb43de4dc5340d37d949b699.pdf)

教職員への配布もおこなっておりますので、お気軽にご連絡ください。



【2】学習室と学習個別ボックスについて

令和3年度より修学支援室では、遠隔授業を受講する学生のために、新たに学習室を設けています。静穏な環境で一定の距離を保って受講できます。また、令和4年度より語学やペア・グループワーク授業にも対応するため、完全個室で高い遮音性のある学習個別ボックスを新たに設けています。(PC/タブレット貸出できます)。

ご利用を希望される方は修学支援室までご連絡ください。



講義、面談
お気軽にご利用
ください！



〈使用学生の感想〉

学習室について

- ・静穏な環境で受講できる。
- ・一人一人の学習スペースが一定の距離で保たれているので、行きやすい。

学習個別ボックスについて

- ・防音性が保たれているので、声を出す授業の時に周囲を気にしないですむ。
- ・机の高さを調節できるので、座ったり立ったり柔軟に受講できる。
- ・換気システムは整っているが、時期によっては暑く感じる。←扇風機を設置しました！

【3】学生アルバイトによる避難補助具使用体験および使用マニュアルの作成について

修学支援室では、体調不良時や災害時に使用できる担架等の避難補助具を所有しています。学生アルバイトの皆さんが、各器具の使用体験を行い、いざという時にどの人が使用することになっても、救護される方も・救護する方も安心して使用できるように、マニュアルを作成しました。

使用マニュアルはセンターHPにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/syogaku/2021/10/post-1.html>

また、いつでも使用体験ができますので、来室ください。

今後も各器具の存在や使用方法の周知に取り組んでいきたいと思っております。

レスキューボードベンチ体験



災害発生時や急病人発生時に、「安全かつ迅速に」避難補助器具を使用するためのマニュアル作りを心がけました。急病人と、急病人を運ぶ人の両方の立場になって器具を試してみたことで、注意すべきことや工夫すべきことに気づくことができました。急病人の容態や、周囲の状況、運べる人がその場に何人いるのかなど、様々な条件によっても使える器具が変わってくるので、それらを分かりやすくマニュアルに記載できたのではないかと思います。このアルバイトを通して、自分自身でも避難補助器具の使用方法を理解し、緊急時にとるべき行動を考え直すことができたので本当に良い経験となりました。

私は今回初めて学内ワークスタディに参加しました。あまり他学部の人と交流したことも無かったので緊張していましたが、障害学生支援センターの皆様と一緒にアルバイトをした先輩方がとても優しく、楽しみながら仕事をする事が出来ました。今回作成した担架の使用マニュアルは、実際に自分たちでも使ってみたり、使っている様子を写真で撮って載せたりと、納得のいくものが作れたと思います。有事の際に少しでも役に立つと嬉しいです。

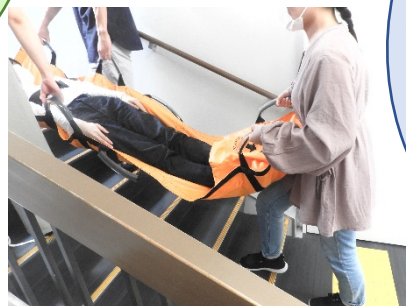
救い帯（イス型）体験



学生アルバイトを通して感じたことが2つあります。

1つ目は、「備え」の大切さです。防災用具の使い方を自分たちで学び、工夫をする中で、危険な使い方や説明が必要な点に気づくことが出来ました。そして、避難用具は有事の際に突然使えるものではないと実感しました。2つ目は、障害学生支援センターは学生の生活に寄り添う居場所であるということです。私は、今回のアルバイトをする以前はセンターについて知りませんでした。しかし、アルバイトでセンターを利用される方や、センターの先生と同じ部屋にすることで、学生の生活とセンターの関わり方や学生が抱える悩みを知ることが出来ました。

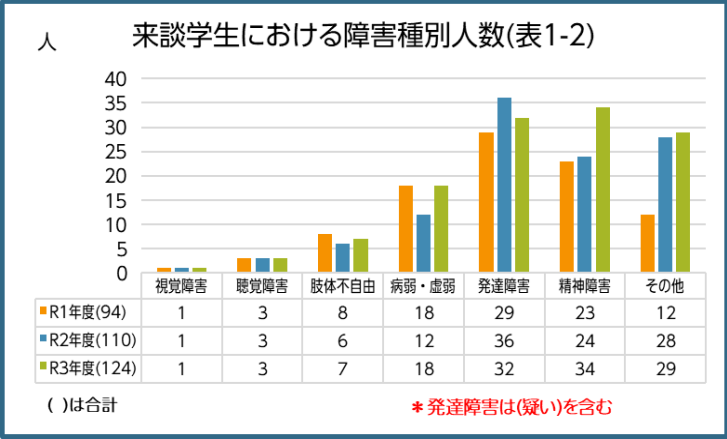
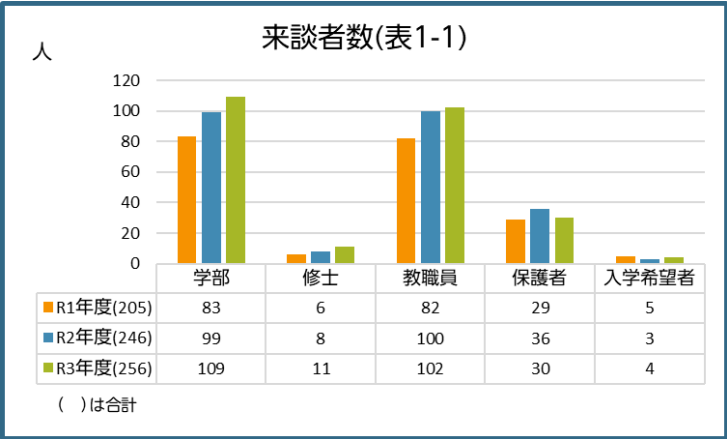
ターポリン救護担架体験



アルバイトとして修学支援室にてお世話になる中で、様々なことを学ぶことができたと考えています。今回、防災用品のマニュアルを作成することでよりそれらへの理解が深まるとともに、災害時の備えについて改めて考えるきっかけとなりました。特にそれぞれがどのような場面・人を対象とした防災用品であるのかということはこれまで注目したことがあまりなく、非常に勉強になりました。私たちが作成したものが、少しでも緊急時の助けになれば幸いです。

[4] 来談者数・相談件数

(1) R3 年度の修学支援室への来談者は 256 人であり、内訳は(表 1-1)の通りでした。学部生、院生、教職員の来談者数が増加しました。学生の相談件数の増加はコロナ禍での多くの変化を受けての相談が多かったように感じています。教職員では、学生のつまずきに気づき、対応や支援について連携のための相談が増加しています。来談学生(学部・修士・入学希望者)における障害種別人数は(表 1-2)の通りでした。R3 年度は精神障害の増加が R2 年度の約 1.4 倍と顕著となっています。長引く新型コロナウイルス感染症への対応や、オンライン・オンデマンド・ハイブリット・対面と変化の多い環境への対応等ではつまずきを感じる精神疾患のある学生が増えているように思います。



(2) 修学支援室活動件数

① **障害学生支援**: 支援の要請があり、必要性が認められた学生に対して実施しています。支援内容には履修登録・成績確認・授業支援・移動支援等(表 2-4)があり、面談により学生の特性や修学における時期に併せて実施しています。R3 年度は学生 106 人、教職員・保護者 114 人の計 220 人に対し、延べ 2473 件(R2 年度は 1213 件)の支援を実施しています(表 2-1)(表 2-2)(表 2-3)。前年度比 2.04 倍の増加となっています。支援件数が 2 倍になった要因としては、新型コロナウイルス感染拡大による遠隔講義への対応及びメンタルヘルスの維持に関する支援等を実施したことが大きく影響しています。

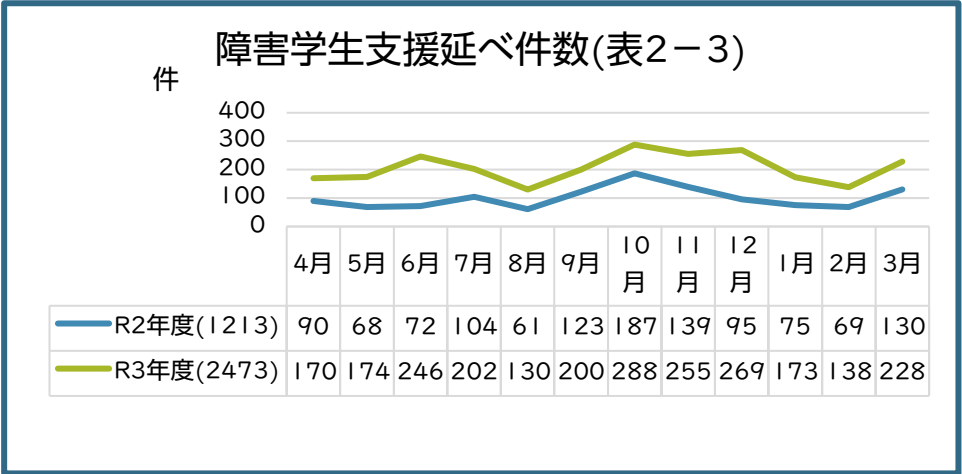
全学的により修学環境を良くするため様々な方法が工夫された R3 年度だったと思います。それぞれの方法に臨機応変に対応することが難しい学生に対し、リマインドを送る、事前事後にスケジュールを確認する等のサポートを実施しています。支援により、学生自身の変化に対応する能力やスキルの向上を目指しています。

R3 年度障害学生支援実数(表 2-1)

	人数
学部	98
修士	6
入学希望者	2
合計	106

R3 年度障害学生支援に関する
連携実数(表 2-2)

	人数
教職員	93
保護者	21
合計	114



(表2-4)

No.	修学に関する支援内容		前期	後期	計
1	点訳・墨訳		0	0	0
2	教材のテキストデータ化		1	0	1
3	教材の拡大		0	0	0
4	ガイドヘルプ		0	0	0
5	リーディングサービス		0	0	0
6	手話通訳（触手話を含む）		0	0	0
7	ノートテイク		0	0	0
8	パソコンテイク		0	0	0
9	ビデ教材字幕付け・文字起こし		0	0	0
10	チューター又はティーチング・アシスタントの活用		0	0	0
11	試験時間延長・別室受験		8	2	10
12	解答方法配慮		0	0	0
13	パソコンの持込使用許可		0	0	0
14	注意事項等文書伝達		0	0	0
15	使用教室配慮		0	1	1
16	実技・実習配慮		1	1	2
17	教室内座席配慮		0	0	0
18	FM補聴器/マイク使用		0	0	0
19	専用机・イス・スペース確保		0	0	0
20	読み上げソフト・音声認識ソフト使用		1	0	1
21	講義に関する配慮（録音許可、板書撮影許可等）		3	3	6
22	配慮依頼文書の送付		36	28	64
23	出席に関する配慮（遅刻、欠席、途中退室等）		0	0	0
24	学習指導（補習、補講、レポート作成、定期試験学習等）		4	4	8
25	授業内容の代替、提出期限延長等		1	1	2
26	履修支援（履修登録補助、優先的な登録等）		13	7	20
27	学外実習・フィールドワーク配慮		1	0	1
29	①独自の 授業支援	教室の確認	3	1	4
30		支援機器の使用説明・貸し出し	7	20	27
31		レポートの提出	2	1	3
32		別室受験の教室の確認	0	3	3
33		休学の連絡	0	0	0
34		成績の確認	37	44	81
35		時間割確認	22	6	28
36		授業出席への声かけ	8	3	11
37		オンライン授業支援	215	282	497
38		保護者への連絡（メール・TEL）	17	13	30
39		担当教員への連絡（メール・TEL）	26	40	66
40		近況確認連絡（メール・TEL）	62	102	164
41		保護者相談	9	14	23
42		メール相談	21	15	36
43		TEL相談	26	38	64
44		情報共有	46	59	105
45		保健管理センターとの連携	2	0	2
46		支援申請書に係るモニタリングと調整	22	27	49
47		面談調整	23	35	58
48		引継	20	49	69
計			637	799	1436

No.	生活に関する支援内容		前期	後期	計
1	学生生活 支援	居場所の確保（占有スペース、仲間づくり等）	2	0	2
2		通学支援（自動車通学許可、専用駐車場等）	0	0	0
3		個別支援情報の収集（出身校との連携等）	1	0	2
4		情報取得支援（行事案内、休講情報等）	14	20	48
5	社会的 スキル指導	自己管理指導（スケジュール管理等）	4	9	17
6		対人関係配慮（対人スキル、トラブル対応等）	1	1	3
7		日常生活支援（食事、入浴、睡眠等）	2	1	5
8	保健管理・ 生活管理	専門家によるカウンセリング	0	0	
9		医療機関との連携	3	2	8
10		医療機器、薬剤の保管等	0	0	
11		休憩室、治療室の確保等	59	46	164
12		生活介助（体位変換、食事、トイレ等）	0	0	
13		介助者の入構、入室許可	0	0	
14	進路・就職 指導	キャリア教育（障害理解、職業適性の把握等）	1	1	3
15		障害学生向け求人情報の提供	2	0	4
16		就職支援情報の提供、支援機関の紹介	0	0	
17		インターンシップ先の開拓	0	0	
18		就職先の開拓、就職活動支援	18	1	37
20	②独自の授業 以外の支援	起床のTEL	3	2	8
21		障害者職業センターの連携	0	0	
22		体調不良者を保健管理センターへ誘導	0	0	
23		アルバイト学生との連絡	3	2	8
24		印刷・スキャン	40	20	100
25		見送り支援	12	3	27
26		卒後フォロー	234	265	733
27		保護者への連絡（メール・TEL）	2	5	9
28		担当教員への連絡（メール・TEL）	0	2	2
29		近況確認連絡（メール・TEL）	47	131	225
30		保護者相談	2	3	7
31		メール相談	2	6	10
32		TEL相談	6	2	14
33		情報共有	12	13	37
34		保健管理センターとの連携	2	3	7
35		病院やタクシーの代行予約・問合せ	3	2	8
36		引継	10	12	32
計			485	552	1037

② **面談**: 面談の対象は学生・保護者・教員です。面談は定期的に行っている場合と、必要に応じてスポット実施している場合の 2 つのパターンがあります。面談では修学、進学、自己理解、対人関係等様々な内容について話し、修学や生活をサポートしています。R3年度は学生83人、教職員・保護者28人の計 111人に対し、延べ313件(R2年度は 290 件)の面談を実施しています(表 2-5)(表 2-6)(表 2-7)。職員及び保護者との面談においては、修学支援のためのコンサルテーションや学生のサポート方法の検討などが多くなっています。件数が、前年度比 1.08 倍とやや増加しています。

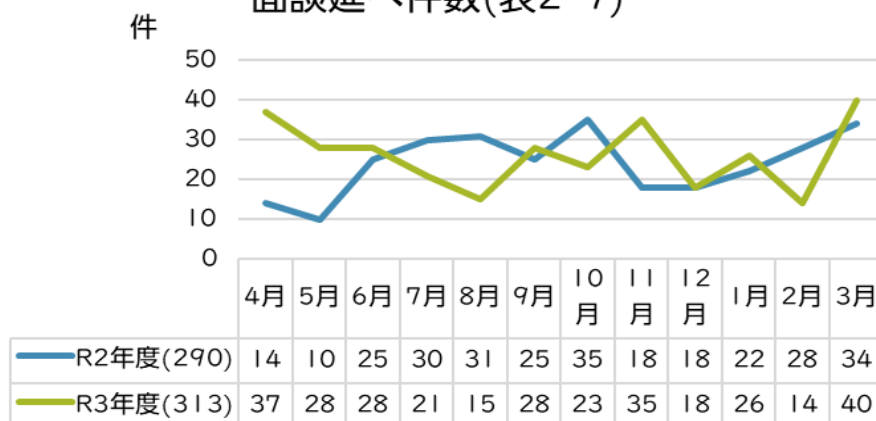
R3年度面談実数(表 2-5)

	人数
学部	77
修士	4
入学希望者	2
合計	83

R3年度障害学生支援(面談)に関する連携実数(表 2-6)

	人数
教職員	13
保護者	15
合計	28

面談延べ件数(表2-7)



③ **来室**: 大学は高校までと異なり、履修の関係で空き時間ができることがあります。その時間の過ごし方や居場所に悩む学生は少なくありません。そのため、修学支援室は会議以外の時間は部屋を開放し学生が休息や昼食、交流の場として利用できるようにしています。R3 年度は学生 65 人、教職員・保護者 17 人の計 82 人、延べ 1025 件(R2 年度は 1165 件)の来室がありました(表 2-8)(表 2-9)(表 2-10)。前年度比 0.96 倍となっています。感染対策のため、部屋への入室制限をする等の対策をとりながら居場所支援を継続しました。

R3 年度新生(学部・大学院合計)の利用は 29 名でした。

なお、昨年度のセンター開室日数は 237 日で面談と来室を合わせて 1 日あたり平均 4.3 名が来室しています。

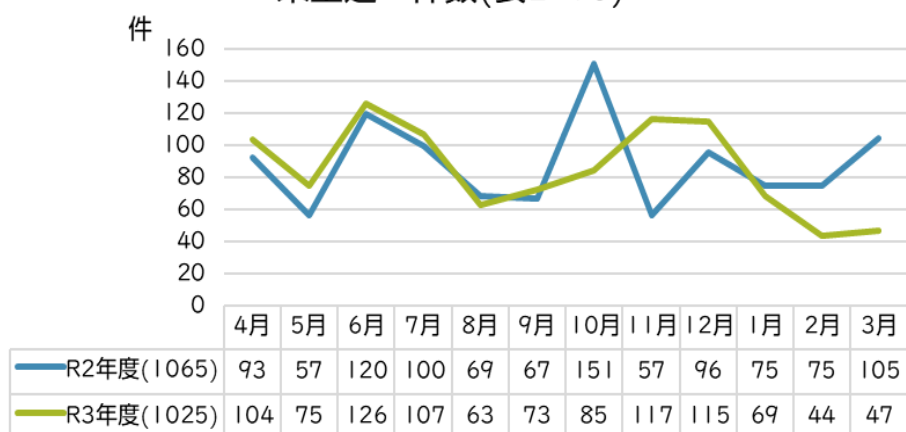
R3 年度来室実数(表 2-8)

	人数
学部	58
修士	7
入学希望者	0
合計	65

R3年度障害学生支援(来室)に関する連携実数(表 2-9)

	人数
教職員	15
保護者	2
合計	17

来室延べ件数(表2-10)

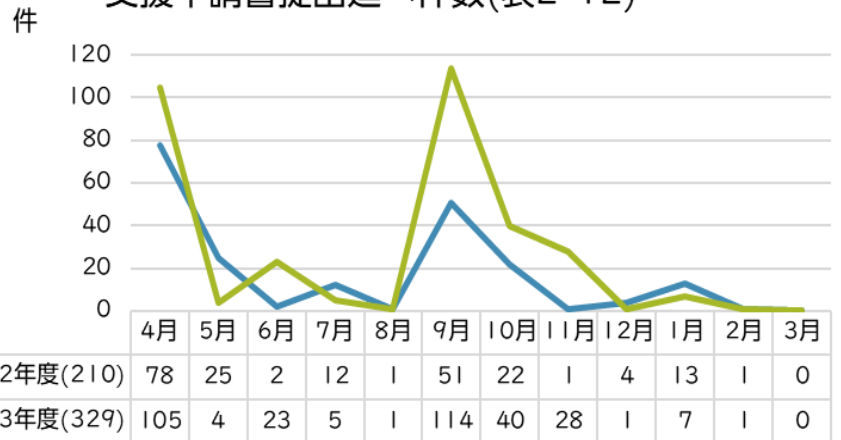


- ④ **支援申請書**: 支援申請書とは障害を理由とした合理的配慮や支援を求める際に提出する書類です。一定の手順に沿って実施します(表 2-13)。R3 年度は 44 人に対し、329 件(R2 年度は 210 件)の提出がありました(表 2-11)(表 2-12)。前年度比 1.57 倍となっています。

R3 年度支援申請書提出実数(表 2-11)

	人数
学部	43
修士	1
入学希望者	-
合計	44

支援申請書提出延べ件数(表 2-12)



(表 2-13)



【5】活動報告

(1) 支援会議・協議会

年度	R3 年度												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入試事前協議会									1	7	6		14
入学事前協議会												3	3
修学支援会議	2	1		2	1	2	1			2			11

(2) 令和 3 年度研修・講習会等の活動記録

年月日	研修・講習会
R3 年 4 月 6 日	令和 3 年度国立大学法人鹿児島大学新任教員研修会講師 「障がいをもつ学生への支援について」
R3 年 5 月 15 日～17 日	日本学生相談学会第 39 回大会へのオンライン参加
R3 年 6 月 18 日	令和 3 年度第 1 回障害学生支援連携協議会
R3 年 9 月 16 日	障害学生支援に関する専門家協議会参加
R3 年 10 月 30 日～31 日	日本発達障害学会第 56 回研究大会へのオンライン参加
R3 年 12 月 9 日	Global Professional Week2021 講師
R3 年 12 月 10 日	障害者支援に関する大学間関係情報交換会への参加 オンライン開催
R3 年 12 月 20 日	学生の相談対応に関する研修会講師

【6】支援機器 *支援説明やお試しもできますので、お気軽にお問い合わせください。

No.	支援機器	メーカー・機種・その他
1	点字対応デブラ	キングジム SD6700D
2	ICレコーダー	Panasonic RR-XS455-K
3	車いす	マツナガ 42 幅 自走タイプ
4	ロジャーペン	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
5	ロジャータッチスクリーンマイク	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
6	ロジャーフォーカス	聴力に関係なく、大きな講義室の中で先生の声だけをよりクリアにきくことが可能
7	ストレッチマット・ポール	屋内外兼用
8	電子メモパッド	KING JIM boogie board BB-9
9	テント	North Eagle キャノピーフルクローズ
10	折りたたみベッド	F907-g1001-100
11	ウェブカメラ	C-615
12	書画カメラ	エプソン ELPDC21
13	ロジャー 線音源スピーカー	デジタルマスター7000
14	ロジャー パスアラウンドマイク	Roger タッチスクリーンマイクとの接続が可能なマイク。人の声の集音に優れている。(2 台)
15	PC テイク用パソコン	Lenovo ThinkPad(3 台)
16	iPad	Apple(2 台)
17	スキャナー	富士通 ScanSnap SV600(1 台) 新聞や雑誌の見開きなどの大きなサイズの原稿、とじられた本を切ったりせずに、最大 A3 サイズまで読み取れる。大切な原稿も紙面に触れずに読み取れるので、原稿を傷めない。
18	体圧分散クッション	EXGEL ミニプニ
19	ヤマハ ユニファイドコミュニケーション スピーカーフォン	1～4 名程度の打合せに最適。バッテリー搭載でミーティングコーナー・自宅・外出先などあらゆる場所で利用可能。
20	ヤマハ ユニファイドコミュニケーション マイクスピーカー YVC-330	4～6 名程度の小規模遠隔会議に最適な会議用スピーカーホン。騒がしいオープンスペース・静かな会議室それぞれの利用に適した 2 つのモードを搭載。
21	ワイヤレス充電デスクライト	タッチセンサー、5 段階調色、5 段階調光、タイマー機能、メモリー機能、ワイヤレス充電
22	1 人用ワークブース	(株)オカムラ(テトラ 1 基) 最小 1 m ² のスペースに手軽に導入できる、吸音パネルに天板を組み合わせたセミクローズの一人用ワークブース。
23	フルクローズ型ワークブース	(株)オカムラ(テレキューブ 1 基) 床・壁・天井すべての面が囲われた個室空間。遮音、吸音、照明、換気の各機能が整っている。

【編集後記】

修学支援室(障害学生支援センター)は設置9年目を迎えました。コロナ禍だからというべきか、コロナ禍でもというべきか迷うところですが、常時学生たちが訪れ自分の課題に取り組んだり、修学について相談したりするセンターとして機能しています。この環境が多くの方々の協力のおかげで継続できていることに深く感謝申し上げます。いつもありがとうございます。また、教員や職員の方々の来室等が増えていることも非常に嬉しく感じています。ぜひお気軽にご相談ください。

日々起こる出来事に、学生教職員併せて 1 万 3 千を超える鹿児島大学という社会がいかに多様でインクルーシブな環境であるかをスタッフ一同(といっても3名ですが...)実感し、感謝と驚きをもって過ごしています。



見やすく読み間違えにくい
ユニバーサルデザインフォ
ントを採用しています

UD フォントに興味のある方
はぜひセンターにお問い合
わせください。

